

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 臨床・健康教育学系・助教

氏 名 池田 吉史

研究期間 平成28年度～平成29年度

研究プロジェクトの名称	特別な教育的ニーズのある児童を含む小集団活動場面を活用した学習支援方法の開発
研究プロジェクトの概要	<p>本研究の目的は、地域の小学校との連携により、放課後学習会における小集団活動場面を活用して、特別な教育的ニーズのある児童が他児との関係の中で共に学ぶ力を高めるための支援方法を開発することである。放課後学習会は、平成28年5月から平成29年2月の間に19回開催された。5月当初は2年生から6年生までの35名が参加し、10月からは1年生が加わり合計44名の児童が参加した。特別支援教育コースの教員2名と大学院生10名が支援にあたった。また平成29年度は、平成29年5月から平成30年2月の間に15回開催された。2年生から6年生までの28名の児童が参加した。特別支援教育コースの教員1名と大学院生7名が支援にあたった。</p>
研究成果の概要	<p>特別な教育的ニーズのある児童を含む小集団において学習支援を実施するためには、集団を構成する児童がそれぞれの考えや意見を述べ、相互に係わる機会を多く持てるような状況を創出する必要がある。そこで、情報統合型課題と意見集約型課題を組み合わせることによる効果について検証した。平成28年度の新たな観点として、小集団学習場面における支援者及び異学年の児童相互の係わりに伴う対話の生成と表現の模倣の状態を分析し、創造性の拡大に及ぼす効果についても検討した。</p> <p>また、平成29年度の取り組みから、特別な教育的ニーズのある子どもたちの学習を促すためには、課題の調整、環境の調整、支援者の係わりの調整の3つの視点から包括的な視点に立ち支援を行うことが有効であることが示唆された。また、それらの支援を通して、子どもたちがその場限りの解決方法としてではなく、その後の自立的な活動への取り組みを支えるスキルを習得させることが将来の自立と社会参加に向けて重要であることが考えられた。</p>
研究成果の発表状況	<p>特別支援教育実践研究センター実践研究会第5回特別支援教育実践研究発表会及び第6回特別支援教育実践研究発表会において、連名による計4件のポスター発表を行った。</p> <p>また、学習支援に伴う児童の創造性の拡大について検討し、その成果の一部は平成28年度修士課程の修士論文としてまとめられた。</p>
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>本研究プロジェクトを通して得られた知見は、研究発表を通して学内外の関係者と共有して議論を交わすだけでなく、大学院生が修了後に携わる教育現場で子どもたちに直接還元することが期待される。</p>